

助産師教育ファーストステージ研修 履修要覧

平成25年度

公益社団法人 全国助産師教育協議会

授業科目名：助産論 1単位（30時間）	
科目設定理由	助産の基礎的概念と助産師の役割を理解し、助産師教育をおこなう基礎となることをねらいとして設定する。
科目目標	女性や家族、社会の中での出産の意味をふまえ、助産及び助産ケアの基盤となる概念や理論を学び、自己の助産観を明確にする。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産の概念 2 助産の歴史と出産の文化 3 助産師の職制と業務、チーム医療の中での助産師の役割 4 助産学を支える理論 1) 助産学を構成する理論 5 助産学を支える理論 2) 助産学研究の動向 6 助産ケアの理念と助産師倫理綱領 7 助産ケアにおける理論 8 女性の人権と健康 9 助産と生命倫理 10 母子保健の動向 1) 日本における母子保健の現状と課題 11 母子保健の動向 2) 世界における母子保健の現状と課題 12 助産師と国際母子保健 13 助産にかかわる政策決定 14 助産管理の概念 15 助産師と医療安全
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産の概念について説明できる。 2 助産の歴史的経緯の概要を説明できる。 3 助産師活動の対象と業務、関係法規について列挙できる。 4 助産学を支える理論が列挙でき、要点を説明できる。 5 助産ケアの理念について説明できる。 6 女性の人権と健康について要点を説明できる。 7 生命倫理について自己の考えを述べられる。 8 国内外の母子保健の現状と課題について要点を説明できる。 9 助産師教育の変遷について概要を説明できる。 10 助産管理の概念について説明できる。
開講時期	平成25年5月17日（金）－19日（日）
授業形態	講義
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産論演習 1単位（30時間）

科目設定理由	助産師教育をおこなう上で必要な、助産の概念や助産学を構築する考え方を理解した上で、様々なリプロダクティブ・ヘルス活動の中における助産活動を分析、展望できる基礎的能力を養うために設定。	
科目目標	助産領域の対象及び活動の場の特性を学び、助産の現状と課題、展望を明らかにする。	
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産分野における倫理的課題の考究 2 助産分野における倫理的課題の考究 3 助産分野における倫理的課題の考究 4 助産分野における倫理的課題の考究 5 助産分野における倫理的課題の考究 6 助産師活動の国際比較 7 助産師活動の国際比較 8 助産師活動の国際比較 9 助産師活動の国際比較 10 助産師活動の国際比較 11 周産期におけるリスクマネジメント 12 周産期におけるリスクマネジメント 13 周産期におけるリスクマネジメント 14 周産期におけるリスクマネジメント 15 周産期におけるリスクマネジメント 	<ol style="list-style-type: none"> インテーク（講義） グループワーク（演習） プレゼンテーション（演習） ディスカッションと総括①（演習と講義） ディスカッションと総括②（演習と講義） インテーク（講義） グループワーク（演習） プレゼンテーション（演習） ディスカッションと総括①（演習と講義） ディスカッションと総括②（演習と講義） インテーク（講義） グループワーク（演習） プレゼンテーション（演習） ディスカッションと総括①（演習と講義） ディスカッションと総括②（演習と講義）
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産分野における倫理的課題について分析し、論理的に説明できる。 2 諸外国の助産師の定義、業務について分析し、論理的に説明できる。 3 周産期の医療事故の具体的事例について分析し、予防策について説明できる。 4 自己の助産観について論理的に述べられる。 	
開講時期	平成25年7月12日（金）－14日（日）	
授業形態	講義	
評価	講師が選択する方法によって評価する。	

授業科目名：助産師教育課程概論Ⅰ 1単位（30時間）	
科目設定理由	看護職に求められる能力を総合的に熟知したうえで、看護基礎教育の特性に応じた助産師教育課程が編成できる基礎的理論を学ぶことを目的として設定（助産師教育課程概論2と共通）。
科目目標	助産教育課程を編成する基盤として、看護教育課程編成の理論について学ぶ。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 教育課程の意味と類型 2 教育課程の歴史と変遷 3 日本の学校の教育課程 4 看護教育の概念と関連用語 5 日本における看護教育の特徴と変遷 6 看護師養成教育と関連法規、保助看法と指定規則、看護師養成教育の制度上の特徴 7 社会の変化と看護教育制度の変化 8 保健師助産師看護師学校養成所指定規則による教育課程 9 チーム医療 10 看護職の教育課程① 11 看護職の教育課程② 12 医師の教育課程① 13 医師の教育課程② 14 薬剤師の教育課程 15 社会福祉士の教育課程
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 看護教育の理念について述べることができる。 2 看護教育に関連する法律について列挙することができる。 3 看護師養成教育の現状と課題について述べることができる。 4 看護師教育課程編成について必要な理論とプロセスを説明できる。
開講時期	平成25年8月4日（日）－6日（火）
授業形態	講義
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育課程概論Ⅱ 1単位（30時間）	
科目設定理由	看護職に求められる能力を総合的に熟知したうえで、看護基礎教育の特性に応じた助産師教育課程が編成できる基礎的理論を学ぶことを目的として設定（助産教育課程概論1と共通）。
科目目標	助産教育課程を編成する上で必要な知識や考え方を学ぶとともに、全国助産師教育協議会の意義や活動理念を理解し、もって、日本の助産師教育を考究、展望、推進できる力を養う。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育を支える法制度 2 助産師教育を管轄する省庁の役割と機能 3 行政が助産師の期待する役割に担当 4 国際的見地から見た助産師の職制と責務 5 助産師のコア・コンペテンシーと助産師教育への反映 6 助産師教育におけるミニマム・リクワイアメンツ 7 わが国の助産師教育制度の歴史と変遷 1) 成り立ちと変遷 8 わが国の助産師教育の歴史と変遷 2) 新カリキュラムの特徴 9 現代の助産師教育課程の現状と将来展望 10 助産師教育課程の認証評価 11 諸外国における助産師教育制度 12 助産師国家試験の変遷と動向 13 全国助産師教育協議会の組織と活動 14 助産師教育を取り巻く職能団体と活動（日本助産師会と日本看護協会） 15 助産師学校における学校管理
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育課程に関する法律を列挙できる。 2 助産師教育を取り巻く環境や現状について、概要を説明できる。 3 現代の助産師教育制度の問題について説明できる。 4 諸外国の助産師教育課程について比較検討できる。 5 多様な助産師教育課程の特徴を説明できる。 6 助産師国家試験の出題基準について説明できる。 7 助産師学校における管理の特徴を説明できる。
開講時期	平成25年8月7日（水）－9日（金）
授業形態	講義
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育課程演習 1単位（30時間）																																														
科目設定理由	教員としての基本的能力のひとつである教育課程編成の能力を養うために、保健師助産師看護師学校養成所指定規則・実践教育課程の考え方を理解し、自校教育課程に主体的に関わる基礎的な力を養う科目とする。																																													
科目目標	助産教育課程編成のプロセスを学び、カリキュラムを編成できる能力を養う。																																													
授業計画 (ユニット)	<table border="0"> <tr> <td>1 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>1) 助産師教育課程の構成概念と構成要素</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>2 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>2) 助産師教育のニーズと制約</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>3 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>3) 卒業時の学生像と教育目的・教育目標</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>4 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>4) 実践能力育成に向けて</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>5 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>5) 必要な教育内容と内容抽出法</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>6 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>6) 教育内容の組織化と科目配列</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>7 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>7) 到達度の考え方と評価計画</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>8 助産師教育課程編成の考え方とプロセス</td> <td>8) 助産教育の第三者評価（認証評価）</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>9 助産師教育課程の実際</td> <td>1) 養成所、学士課程のカリキュラムの特徴と実際</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>10 助産師教育課程の実際</td> <td>2) 専攻科、大学院のカリキュラムの特徴と実際</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>11 カリキュラム編成の実際</td> <td>1) インテーク</td> <td>(講義)</td> </tr> <tr> <td>12 カリキュラム編成の実際</td> <td>2) グループワーク</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>13 カリキュラム編成の実際</td> <td>3) プレゼンテーション</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>14 カリキュラム編成の実際</td> <td>4) ディスカッション</td> <td>(演習)</td> </tr> <tr> <td>15 助産師教育課程の課題と展望</td> <td>(ディスカッション)</td> <td>(演習)</td> </tr> </table>	1 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	1) 助産師教育課程の構成概念と構成要素	(講義)	2 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	2) 助産師教育のニーズと制約	(講義)	3 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	3) 卒業時の学生像と教育目的・教育目標	(講義)	4 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	4) 実践能力育成に向けて	(講義)	5 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	5) 必要な教育内容と内容抽出法	(講義)	6 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	6) 教育内容の組織化と科目配列	(講義)	7 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	7) 到達度の考え方と評価計画	(講義)	8 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	8) 助産教育の第三者評価（認証評価）	(講義)	9 助産師教育課程の実際	1) 養成所、学士課程のカリキュラムの特徴と実際	(講義)	10 助産師教育課程の実際	2) 専攻科、大学院のカリキュラムの特徴と実際	(講義)	11 カリキュラム編成の実際	1) インテーク	(講義)	12 カリキュラム編成の実際	2) グループワーク	(演習)	13 カリキュラム編成の実際	3) プレゼンテーション	(演習)	14 カリキュラム編成の実際	4) ディスカッション	(演習)	15 助産師教育課程の課題と展望	(ディスカッション)	(演習)
1 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	1) 助産師教育課程の構成概念と構成要素	(講義)																																												
2 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	2) 助産師教育のニーズと制約	(講義)																																												
3 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	3) 卒業時の学生像と教育目的・教育目標	(講義)																																												
4 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	4) 実践能力育成に向けて	(講義)																																												
5 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	5) 必要な教育内容と内容抽出法	(講義)																																												
6 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	6) 教育内容の組織化と科目配列	(講義)																																												
7 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	7) 到達度の考え方と評価計画	(講義)																																												
8 助産師教育課程編成の考え方とプロセス	8) 助産教育の第三者評価（認証評価）	(講義)																																												
9 助産師教育課程の実際	1) 養成所、学士課程のカリキュラムの特徴と実際	(講義)																																												
10 助産師教育課程の実際	2) 専攻科、大学院のカリキュラムの特徴と実際	(講義)																																												
11 カリキュラム編成の実際	1) インテーク	(講義)																																												
12 カリキュラム編成の実際	2) グループワーク	(演習)																																												
13 カリキュラム編成の実際	3) プレゼンテーション	(演習)																																												
14 カリキュラム編成の実際	4) ディスカッション	(演習)																																												
15 助産師教育課程の課題と展望	(ディスカッション)	(演習)																																												
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産師教育課程の構成概念、構成要素を説明できる。 2 助産師教育課程編成について必要な理論とプロセスを説明できる。 3 カリキュラムが立案できる。 4 授業展開（教授－学習過程）について説明できる。 5 評価方法について説明できる。 6 助産師教育の現状と今後の課題について、自己の考えを述べることができる。 																																													
開講時期	平成25年10月11日（金）－13日（日）																																													
授業形態	講義・演習																																													
評価	講師が選択する方法によって評価する。																																													

授業科目名：助産師教育方法論 2単位（60時間）	
科目設定理由	助産師独自のケア対象に対して、学生や新人助産師が助産課程の目標を達成することを支援する教育の展開のために必要な、教材研究や学生観、指導方法について教授するため設定。
科目目標	助産教育の方法が理解でき、単元の目標に沿った教育が展開できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産教育における教授-学習活動の成立 2 教育指導技術の種類と特徴 講義・演習・臨地実習の役割 3 教育指導技術の種類と特徴 手法と期待される効果 4 助産実習における指導者の役割と法的責任 5 学生の特徴の捉え方、ハラスメントとメンタリング① 6 助産教育における指導観 7 助産教育における教材と教材研究 (1) 教材研究の過程 8 助産教育における教材と教材研究 (2) 教材の選定 9 助産教育における教材と教材研究 (3) 学習者の経験の教材化 10 教材の管理 11 助産教育における技術教育及び問題解決能力 (1) 技術力を促す教育方法 12 助産教育における技術教育及び問題解決能力 (2) 思考過程を促す教育方法 13 助産教育における技術教育及び問題解決能力 (3) 知識と実践の統合 14 助産教育における教授学習作成の考え方 講義指導案作成の考え方 15 助産教育における講義指導案作成 16 助産教育における教授学習作成の考え方 演習指導案作成の考え方 17 演習指導案作成 18 臨地実習における交渉と実習環境調整① 19 助産教育における臨地実習指導案作成
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産教育における教材観・学習者観・指導観を修得できる。 2 単元設定の理由・目標を定めることができる。 3 単元の目標に沿った指導案を作成することができる。 4 指導案に沿った講義・演習を展開することができる。 5 より効果的な助産教育の方法を思考することができる。
開講時期	平成26年1月5日（日）－7日（火）、平成26年3月3日（月）－5日（水）
授業形態	講義
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育方法演習 1単位（30時間）

科目設定理由	助産教育方法論で学んだ知識を実践に移し、具体的な教育方法を習得する上で演習は必須であるため設定。
科目目標	助産学生の特徴，学習目標を理解したうえで，講義・演習が実践できる。 学内の学習と臨地実習との関連が理解できる。
授業計画 (ユニット)	<p>1～3 単元目標に合った教材の検討（図書，配布資料，視聴覚教材，モデル媒体）</p> <p>4 教材管理 物品請求・物品管理の実際</p> <p>5 模擬講義 講義形式</p> <p>6 模擬講義 グループワーク</p> <p>7 グループワーク よりよい講義方法の検討</p> <p>8～11 模擬演習</p> <p>12 グループワーク よりよい演習方法の検討</p> <p>13 事例検討 学習が困難な学生への学内での対応</p> <p>14 事例検討 困難対応事例への対応をめぐる臨地実習指導者との調整</p> <p>15 グループワーク 学内での学習を効果的な臨地実習につなげるために</p>
到達目標	<p>1 単元の目標に沿った指導案を作成することができる。</p> <p>2 助産教育における教材観・学習者観・指導観に沿って講義・演習が実践できる。</p> <p>3 より効果的な助産教育の方法を思考することができる。</p> <p>4 講義・演習と臨地実習との関連性が理解できる。</p>
開講時期	平成26年1月8日（水）－10日（金）
授業形態	演習
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育評価演習 1単位（45時間）	
科目設定理由	助産教育の成果を検討する上で評価の視点は重要である。 教育の質を維持・向上させるための学習環境のアセスメントと学習活動とその成果に対する適切な評価がおこなえるよう設定。
科目目標	学習者にとって適切な学習環境を理解し、助産教育上必要な配慮と評価方法が理解できる。 評価の現状を知ったうえでより良い評価方法について思考できる。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 助産教育における評価の目的と機能 2 評価方法 3 評価者の質 4 学生の学習環境の視点と評価（1）講義・演習 5 学生の学習環境の視点と評価（2）臨地実習 6 学習プロセスの評価 7 学習成果の評価 8 評価の妥当性と信頼性 9 助産教育における評価目標設定と評価基準（1）講義 10 助産教育における評価目標設定と評価基準（2）演習 11 助産教育における評価目標設定と評価基準（3）臨地実習 12 グループワーク（1）評価基準の作成 13 グループワーク（2）評価基準の検討 14 グループワーク（3）評価基準の修正 15 事例検討（1）講義における到達度 16 事例検討（2）演習における到達度 17 事例検討（3）臨地実習における到達度 18 助産教育者の自己点検評価（1）助産師教育に求められる自己点検評価 19 助産教育者の自己点検評価（2）教育活動の評価 20 助産教育者の自己点検評価（3）研究活動の評価 21 助産教育者の自己点検評価（4）組織運営の評価 22 評価の公表 23 助産教育評価の現状と課題
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 学習者の適切な学習環境について理解できる。 2 単元の目標に沿った評価の視点と評価方法が理解できる。 3 評価の現状について理解し、より良い評価の視点・方法について思考できる。
開講時期	平成26年3月17日（月）～20日（木）
授業形態	演習
評価	講師が選択する方法によって評価する。

授業科目名：助産師教育実習 1単位45時間

科目設定理由	助産師学生に対する臨地実習の指導方法の実際を理解するため設定。
科目目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床・臨地で学習者が助産過程を展開することを支援する方法を理解し、実施する。 2 助産学のさまざまな教授方法を展開する。 3 学習者の到達度を適切に評価する方法を理解する。
授業計画 (ユニット)	<ol style="list-style-type: none"> 1 実習の準備（実習に必要な物品と管理・学習者のレディネスの把握と支援・施設側の準備） 2 臨地での教育活動の実際（実習施設選択：病院、診療所、助産所、地域、自宅分娩） 3 <ul style="list-style-type: none"> ・実習での教員の役割 ・24時間実習への対応 4 <ul style="list-style-type: none"> ・教育機関から離れた地域にある施設で実習する場合の留意点 ・振り返りカンファレンスの持ちかた <p>＊研修生の研修目標に応じて、様々な実習施設の内から選択・調整し実習をおこないます。</p> <p>例：妊婦健診（助産師外来）での指導、分娩介助、助産師が行う家庭訪問、地域での助産師活動の実習指導、家族計画に関する実習指導の実際、など</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 実習の評価
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 臨床・臨地で学習者が助産過程を展開することを支援する方法が理解できる。 2 臨床・臨地での教員の役割が理解できる。 3 臨床・臨地で学習者がおこなった助産過程を評価する方法が理解できる。 4 学習困難事例への対応が理解できる
開講時期	希望時期
授業形態	実習
評価	講師が選択する方法によって評価する。